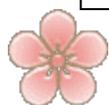


北陸発の

ふ・る・さ・と探訪



今年度のまちなかセミナーは、室町時代における一向一揆と越前大名に関する講義と、江戸時代における加賀藩武士の日記に関する講義を通して、「ふるさと」北陸を探訪します。

現在、学校等においてふるさと教育や郷土学習が取り組まれています。富山、石川、福井の「財産」でもある歴史的な事象を様々な角度から分析・発信することを通して、「ふるさと」の歴史と出会い、見つめ直し、新たな「ふるさと」発見の機会とすることを願い開催します。

- ◆ 日時 平成18年11月3日（祝・金） 14:00～16:00
- ◆ 会場 金沢大学 大学教育開放センター 講義室（角間キャンパス）

入場無料
事前の申込は必要ありません

講義 1

加賀一向一揆と越前大名

講師 ◆ 福井大学教育地域科学部 松浦義則 教授

中世後期の加賀一向一揆に対する周辺の大名の対応のなかでは、越前大名朝倉氏と柴田勝家が注目されます。朝倉氏は富樫政親・幸千代の内戦時期から、加賀に関与しています。加賀と越前の対立は、1506年の加賀一揆軍の越前進入により決定的となり、加賀の大小一揆（享禄の錯乱）の時には朝倉氏が小一揆支援のため加賀に進入し、そして最後は勝家軍の侵入により、百年近く支配を誇った加賀一向一揆も壊滅させられるのです。戦国期の政治動向は、一方の戦国大名の展開と他方の一向一揆の形成を二つの基軸としていますが、加賀・越前はこの二つの動向が地域的にも隣り合わせになっているという点で興味深いのです。

講義 2

加賀藩上級武士の旅 - 江戸～金沢の道中日記 -

講師 ◆ 富山大学人文学部 鈴木景二 教授



江戸時代、大名の国元と江戸藩邸のあいだには参勤交代だけでなく、多くの武士の往来がありました。加賀藩でも多くの武士が行き来し、その道中日記が残されています。今回のセミナーでは、家老にあたる前田土佐守家の若殿様の旅日記をとりあげます。

時代は寛政の改革のころ、好奇心旺盛な彼は、道中の景色はもちろん、関所通過時の賄賂要求の実態や、難所親不知を越えるときのガイドの肉声まで書きとめています。庶民の旅とはまた違った武士の旅について、ご関心を持っていただければ幸いです。

お問合せ 金沢大学 大学教育開放センター

〒920-1192 金沢市角間町 電話 (076) 264-5242・5273 Fax (076) 234-4045 E-mail: kaihou@ad.kanazawa-u.ac.jp

主催 富山大学 金沢大学 福井大学 北陸先端科学技術大学院大学